日本語でPEACE

CLIL 実践ガイド

奥野由紀子［編著］
小林明子
佐藤礼子
元田 静
渡部倫子
［著］

にほんごの凡人社

はじめに

本書は内容言語統合型学習（CLIL : Content and Language Integrated Learning）のアプローチに基づいたテキスト『日本語×世界の課題を学ぶ　日本語で PEACE［Poverty 中上級］』（以下、『日本語で PEACE　P 巻』）の教師用ガイドブックです。言語教育では、目標言語での十分なインプットやアウトプット、自然なインタラクションが重要とされていますが、CLIL は、教室内でそのような状況を作り出しやすい上、使い勝手のよいフレームワークを用いているため、非常に柔軟で多様なやり方が可能であり、どの教育現場においても応用、実践しやすいのが特徴です。一方、内容と言語を統合し、思考を深め、協学や異文化理解を進めながら、どのように実践すればよいのかよくわからないという声も少なくありません。そこで、テキスト『日本語で PEACE　P 巻』を使って、CLIL を実践する際の教師の方々へのスキャフォールディング（足場かけ）になればと、本書『日本語で PEACE　CLIL 実践ガイド』を執筆することにしました。

CLIL のアプローチで教えてみたいと思うものの、内容について教師側に専門的な知識がなければ教えられないという思い込みが、実践への一歩を踏み出すことをためらわせる一因になっていることも多いようです。CLIL では、教師も共に学んでいく、教師も知らないことを一緒に知っていく、教師も学習者から教えてもらう、という教師側の教育観の転換がまずは必要でしょう。教師は目の前の学習者に合わせて、内容と言語のバランスをとりながら、学習者の思考力を高め、対話が生まれる協学の場をつくり、スキャフォールディングを行っていくという役割を果たすことが重要です。

また、内容面に意識を向けると、言語面での学びをどう捉えていけばよいのかわからなくなるという声もよく聞きます。CLIL はいわゆる文型を教えるアプローチではないので、文型中心で教えてきた教師が不安に思うのも当然です。CLIL では、内容を通して学習者が考えたことを表現していく過程で、知っていても使えない表現が使えるようになり、さらに、このように言うとより伝わるというフィードバックを受けたり、他の学習者が話しているのを聞いたりすることで、新しい表現や語彙を取り入れ、意味や文脈と共に定着が図られます。このような方法は、第二言語習得研究においてもその意義が認められているところです。教師も学習者も内容にフォーカスしながらも言語面にもモニターを働かせているので頭はフル回転ですが、その分大きな学びが得られると言ってよいでしょう。

本書では、『日本語で PEACE　P 巻』を実践するにあたり、ヒントになるような実践者の内省（つぶやき）や、学習者の発話例、学習者からのコメント、言語面のサポート例などをできるだけ具体的に示しました。テキスト『日本語で PEACE　P 巻』を使って授業をしてみたいと思われた先生方はもちろん、テキストとは異なる内容を取り上げる場合や、CLIL を用いた教育実習を行う際にも役に立つと思われます。『日本語で PEACE　CLIL 実践ガイド』を手に、ぜひ、平和を目指すことばの教育実践を一緒にしてみませんか。

2022 年　春　大変な状況下にある人々に思いをよせて

奥野由紀子

もくじ

はじめに i

第1部 『日本語で PEACE』って？

「PEACE」とは 3
CLIL について 9
本書の構成について 13
テキスト『日本語で PEACE　P 巻』を使ったコースの流れ 14
オリエンテーションについて 20
授業を行うに際しての Q&A 集 22
学習者からのコメント 28
日本語 L1 学生からのコメント 31

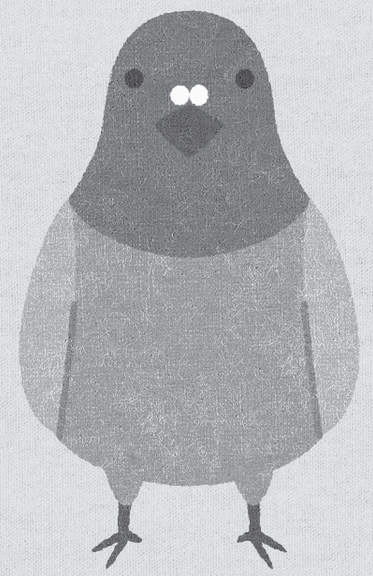
第2部 各ユニットの手引き

ユニット 1 35
ユニット 2 41
ユニット 3 49
ユニット 4 57
ユニット 5 63
ユニット 6 71
ユニット 7 77
ユニット 8 81
ユニット 9 87
ユニット 10 91
オプションユニット 99

巻末資料

CLIL のためのブックガイド 109
「PEACE」プロジェクトに関する研究成果の紹介 111

おわりに 115

第1部

『日本語で PEACE』って？